

絵を描き終わるとサインを入れる。TAKA と入れる。なかなかいいロゴであると自賛しています。今日は早速サインをした。020112 TAKA。

今はこれらを書いた後の絵の写真撮影の話。生意気ですが、中版カメラ 6X7 フィルムで撮影します。絵が 10 枚ぐらい溜まると、夜を待って冷蔵庫からフィルムを出し、ライトをつけ、三脚を立てると、なかなか手順は邪魔くさいが、これがまた楽しい。撮影方法は USA にいた時 Mr. Higa. Yoshi から習った。USA で描いた何枚かのオレの画を実際に撮影して教えてくれた。3500 度のライトをこう置いて、タングステンフィルムを買って、シャッター速度は 00 秒、絞りは 00、これを覚えておくと後々便利だよと、その通りになった。

近所の DPE 屋さんに行って、現像を何日か待つ。先日買いかえた 3 万円の安物スキャナーでパソコンに取り込み photoshop で、実物の絵を横に置いて色合わせ作業。中西プロ「6X7 で撮ると、後々いい財産だ」というかと思えば「なんでデジカメで撮らん？」とのたまう。フィルムカメラで撮っても、デジタル化の過程で安物スキャナーでは意味がないし、かといって、上等デジタルカメラは持っていないし、なんて考えず今はこれでよし。

画像は今の玄関。恒例の絵としめ縄。みなさん、本年もよろしくお願ひします。

0024 内と外の話 090112

鉛筆でスケッチを描いていた。自転車に乗っている姿、バイクにまたがる姿を描いていた。何枚か描いて、「車の中も描こう」と描いた、何枚も描いた。座る処、ハンドル、ドア、天井、計器盤、ガラスと描きながら強い感動を覚えた。

同じ乗り物でも、自転車バイクの絵は“風の中、自転車バイクに乗った人”を描いている。ところが、車の運転席に座ると“車を運転する自分、窓の外を見る自分”を描いている。

オレにとって、自転車バイクは“外”なのだ。

車の運転は“内”なのだ。

自転車バイクは、外気、風を横切る、つまり“外”という概念なのだ。その点、車の運転席は、外を見る、外にわけ入る、自身は内にいて、外を対象としている、つまり“内”という概念なのだ。なんて事を考えながら、鉛筆の線が走る。

そういえば今まで“外”の概念ばかりを描いていた？次元を変えてみると、異風景、異次元、異空間が見えてくるかもしれない。原点を変える。立ち位置を変える。むむむ、わくわくしますね、正月早々楽しい事です。

ちょっと時間をおいて視覚で表したらなんだろう。夜、空を見て「月を見る、月に感動」と「満点の星を、雲を見る、銀河に感動」この違いかなと言え、何だそんな事かと言われそうだが、「真理を追究するオレにとって、大事なことなんだ」と言いながら、このたとえは違うようだ。

画像は IT 検索で 探しました

0025 バドミントン 140112

2年前から、近所の公民館主催、バドミントン講座を受けています。年12回と少なく、場所の都合なんかで、次の週に練習が続く事もあれば、1,2カ月、間が空く事もあります。昨夜は練習日でしたが、ほぼ1カ月間練習日が空いたので、我が鈍い運動能力がよけいに鈍って、身体がぎくしゃくと思うように動かない。テニス愛好家の友人たちが「週1,2回。せめて週1回はやらんと、あかんよ」とオレめに苦言を呈される。本当に毎週ぐらいに続けて練習をすると、身体がついて行くのがわかる。学生時代スポーツ経験者に言わせれば当然のこのようだけど。

運動苦手なオレ、バドミントンが、こんなに続けられるとは思わなかったが、休みなく練習に行っている。しかも楽しげに行っている。山登りのおかげで体力はあるので、40歳代の方々と同じように動き回れる。バドミントンはテニスよりハードなスポーツと後から人に聞く。講座を受けてみようと思った当初は、若いころ道端でやっていたバドミントンまがいの延長ぐらいに思っていたが、中々奥深い、難しい、ハードなスポーツだと再認識。コーチは<宮本さん>有名プレイヤーで、練習風景も大迫力、大音声で、オレも含めてみなさん大奮闘である。

やってみてわかった事は、無風の体育館でしかできないので、雨風には無縁だけれど、夏の閉めきった体育館は蒸しブロ状態。こんな時は夏の雪渓をフウフウ登りながらも上からの冷たい風が思い出される。床はワックスをかけないと滑りやすい、体育館の予約とややこしい問題もある。装備は、我々程度ならラケット1本あればいい。服装もありあわせの上下と、室内用運動靴で事は足りる。登山ほどお金はかからない。もうしばらくは続けますぞ。

0026 北八ヶ岳シラビソ小屋 150112

ラジオで稲子→シラビソ小屋→硫黄岳の話聞いて、昔の資料を探した。2009年6月となっているので6年前の話。今回目指したシラビソ小屋は、「昭和27年~35年の間活躍した、稲子湯~みどり池軌道の終点」と説明のトロッコール沿いにある。天気予報が悪い方に前倒しして、山に入った途端に雨模様。年齢がオレは下から二番目という、高年齢登山集団7人。シラビソ小屋について「雨だ、登れない、温泉だ」の声が聞こえる。夕食は小屋の中でコンロを出して、肉や野菜とアルコール。「さけがうまい」といい調子。ちなみに6年後の今、山を続けているのは2,3人かな。

よく朝のシラビソ小屋、窓の外に、鳥、リスがやってくる。向こうにみどり池、その向こうに硫黄岳の絶壁。北八つは若者も多く、展覧会や音楽会が盛んだとか。オレこのしっとり感が好きだね、それにオカミもいい。

Tさんと硫黄岳へ。レールの残骸を見ながら本沢温泉を横に見てどんどん登ります。硫黄のにおい、露天風呂が真下に見える、600円也。いつの日か入ってみよう。デカイ木が2,3本、折り倒されているところを発見。「ムム、鬼め、暴れたな」鬼めすごい力だ。今昔物語の鬼を思い出した。雨に降られて、ずぶぬれ登山、てっぺんは何も見えない。晴れていたら青い空、周りの山々、火山の噴火跡、下にシラビソ小屋が見えるはず。それでも爽快、ここはいつ来てもいい。

トロッコールは山奥から小海線の駅まで木材を降ろす手段として敷設されたそう。動力がないので下りは木製のブレーキ、登りは馬が曳き上げていたそう。オレ半世紀前小学生のころ鳥飼村淀川の堤防工事にトロッコが活躍していた。人夫がない時悪ガキが押ししたり乗ったりしていた。木製のブレーキを操りながら下るなんて、急勾配は、命がけだな。空のトロッコひっぱり上げる馬君も気の毒だ。

0027 もうひとつの内と外 160112

梅原猛論を参考にすると、日本人の人生観の太陽は、昼間のキラキラでなく、昇る時、沈む時だという。オレ思うに、太陽が昇る-生の世界が始まる、明るさにさらけ出された自分、他者、物、物、物、それらが自分のものになる、内である。太陽が沈む-死の世界、闇の世界が始まる。今のようにスイッチをひねると灯りがつく文明社会はいく分差し引くとしても、暗闇の中、かすかに見えるもの、見えないものを、己の想像、妄想が遠ざける、恐ろしくさせる。外になっってしまう。陽が昇る、沈むと、今でも感慨深げに空を見る。こんな人生観は人間共通のものじゃないかな。

もうひとつは、市の人権講演会での話

差別には二つの形態がある 「“下” “外”だ」と講師先生。

上下関係は、常識的に常道的に差別区別があるが、外とはなんだ？講師先生が、たとえばと話をされて納得、感激。大きな商家があって、主人に家族、赤ちゃんもいる。同じ屋根の下に、丁稚、奉公人、飯炊きばあさん、下女が住んでいる。下女は赤ちゃんの子守をする。これは普通の上下関係身分関係だが、「非人は、同じ家に住ませない、まして赤ちゃんの守なんて、汚らしい」と家の中に入れてない、仲間として扱わない。これが外という概念。われわれ人間は生きていくのに、仲間の存在、協力、支えが必要だが、その仲間に入れてもらえない、入れないのが“外”なのだ。

前回の“内と外”の話のコメントで、他者（この場合鳥や虫だが）の目に、感覚になって世界を見る、見られたら素晴らしい。“内と外”この事はもっと考えてみなくては。画像は、某所での焚き火。炎は背丈より高かった。

0028 十二神将 240112

奈良、新薬師寺へ行った。二十代、三十代に何度か行って以来久しぶりだ。同道した娘が「子どもの頃に来たような、記憶がないような・来てよかった」という。伽藍の中に一步足を踏み入ると、そこにお目当ての十二神将がお座した。と昔、教科書に載っていた堀辰夫か、立原正秋の唐招提寺の寄稿文に習って書いてみた。

この十二神将は若いころに大感激した仏像の一つ。が、今回見て「あれれ、こんなんだ」と最初に思った。ひと廻りふた廻りと歩いた。オレの頭の中には、怒れる鬼、天に地に吠える姿、今にも弓を槍を繰り出す、そんなリアルな姿を想像していた。今見ている十二神将は、彫刻モデルのポーズのように立っている。うごきが少ない。顔も肖像画のようだ。憤怒、感情がない。「??？」オレ自身の感覚が年を経たのか、最近の画像の進歩でリアルに慣れてしまったのか・・・。

そんな事を思いながら廻り続けた。廻っているうちに、うれしくなってきた。それぞれの顔が、親しく迫ってきた。何処にでもいるおっさん爺さんに見えてきた。この像を造った作者が見えてきた。ジワリ、感動。すごい。オレ自身現代に毒されすぎているぞ、と反省。

この寺、有名な割には儲からないのか、傷んでいるところが多い。本堂も、もとは食堂の建物だとかで、華美ではない。新薬師寺はこんな鄙びた様がいいのかもしれない。

0029 車を運転する 250112

今、乗っている車を廃車にしようと思っている。毎日乗っても乗らなくても、経費は同じようにかかるし、燃費が悪くガソリン代がオレにとってはすごい、ということで決めた。10年前に10年乗ったハイエースレジアスを友人から貰

い受けた。故障知らずで、いまだにグイグイ走る、エンジンが大きいので走りの性能もいい、大きいので8人も乗れる、といい事づくめ。うまく走って8キロ/リッターとガソリン消費。ガソリンをタンクいっぱい入れると一万円近くの支払いになる。車の運転免許を取ったのがもう40年も前の事です。20年前、箱型の車が手に入ってから、ずっと箱型車を愛用している。バスの運転手のような気分で運転が気に入っている。

車で寝泊まりして旅をすることを覚えて20年、何度も車泊をした。車泊の旅の仕方を伝授しましょう。最近車泊が一番いい場所は“道の駅”です。ここはキャンピングカーを始め、普通乗用車でも夕方になると、椅子とコンロを持ち出して晚餐の準備をする人がひと組ふた組と見かけます。漁港、パーキングスペース、林道とトイレさえあれば泊られます。お世話になりました。アウトドアーの最低限のマナーは、ゴミの持ち帰り、道をふさがない、かな。自然の中で眠れて、テントよりも快適。昼間は車を置いて、徒歩や自転車でもわるといい。キャンパスを広げて描いた事もあるし、スケッチブックを持って歩き回った事もある。いやなのは雨。アウトドアーで雨に降られるといやですねえ。知人は雨の日は、都会に近づいて、車を駐車場に止め、都会生活を楽しむそうです。

車泊は、世間の方々はあまり歓迎しないかもしれませんね。マナー、治安が悪くなる、現地に金を落とさない・・・。画像は、いつも自己紹介の時使う絵です

0030 新しい靴を買った 270112

先日、オレの亡き母親の弟が亡くなって、「荼毘をすました」と報告が入った。彼の母親で、オレのばあちゃんも彼が斎場で荼毘だけした。冠婚葬祭が嫌いなのか、けったいな叔父だが、葬式はなし、まずはあっぱれ。

買ったのはジョギングシューズ。オレは河原を毎日うろうろするので、ジョギングシューズが1年足らずで駄目になる。新しい靴がきた、と喜んで、靴に付いているロゴマークを、ハサミでちよん。「あれれ」なんと新しい靴の紐を切ってしまったではないか。でその時、“かの叔父”を思い出してくすくす笑い。オレが子どもの頃だから、母親が30歳ぐらい、“かの叔父”も、共産党員から足を洗って、商社に勤め、日々接待だ、ゴルフだと走り回っていた。母親と“かの叔父が子どもの頃の話だそうだが、彼が新しい靴を買ってもらって、喜びいさんで、ハサミで値札を切るつもりが、本体を切ってしまったそうで、泣きべそをかいていたとか。そんな思い出話を何かの時にしながら、母親が“かの叔父”のことを「バカなやつだ、自分でしたのだから、べそをかくしかないけど」と笑っていたのを思い出した。

こんな時代だ。オレの死は、どうしようかな。「葬式なんかいらねえ」と、あっぱれになれるかなあ。“かの叔父”も亡くなり残りは家族以外、我が弟“シロー”だけになった。と、オレは俗っぽいねえ。

0031 奈良市高畑界限 280112

たまたま志賀直哉の旧宅辺りを散策した話を読んだ。近鉄奈良駅から東大寺、春日大社の喧騒を抜け、奈良ホテルを過ぎた辺りから、閑静な住宅街。そんな中に志賀直哉の旧宅がある。そこから10分20分歩くと、先日行った新薬師寺、白毫寺がある。ここから南、昔は里山と田んぼ、所々の農家だったが、今はどうなっているのだろうか。何も無い田んぼを歩くのが好きだった。石上（いそのかみ）神宮などがある、“山の辺の道”へと続くのかな。1500年前に都があった地なので、有名なところがたくさんあるが、それなりに鄙びた風情はなかなかいい。漆喰の剥がれた土壁がいい。土壁の黄土色が昔から気に入っている。冬の今の季節は植物も花も元気がないが、風が吹く、土が見える、木が繁ってないので、遠くが見える、とそれなりにいい。ただ日本全国どこに行っても、見られるような近代建築が

奈良のこの辺りにもいっぱいだ、いやだねと言ってみても、もう始まらないかな。日本じゅうどこに行っても、同じ景色はやはりいやだね。

外国人が自分の住んでいるところを「こんなにいいところはない、離れたくない、最高だ、大好きだ」と誇らしげに言っているのをよく聞く。日本人は恥ずかしくて「最高だ、大好きだ」と大声で言わないのか、それとも自分の住んでいるところが本当に嫌いな人が多いのか、どっちだろうね。「こんなところは、何もないところ」とか「不便で、田舎で、どうしようもない」と愚痴る人が多いように思う。オレそんな田舎が好きだけど、そんな事をいうのは、旅人の傲慢かな。

0032 カマキリの雪予想を読んで 300112

おもしろいエッセイ発見。酒井興喜夫（よきお）作「カマキリの雪予想」TV アンテナ会社経営で工学博士。

1963年38豪雪という大災害がり、各地のTVアンテナが折れ倒れ大変困った経験から、その冬の積雪量の予測ができれば災害に備えられる、と研究された。「カマキリが高い所に産卵すると大雪」「蛇や蛙が地中深く冬眠すると小雪」と言い伝えがあるのをヒントにカマキリの卵を調べて二十年。観測箇所も他県の雪国を含めて何百か所。「カマキリの言い伝えには信憑性がある」と本人が、そして「あなたの積雪予報はよく当たる」と世間の人たちも。

先生の調査の結論<地中がその年の積雪を予想している。樹木がその年の積雪を予想している>地中がその年の積雪予想を振動で発信している。その振動を樹木の幹が共振し、カマキリがそれをキャッチして、雪のかぶらないところに産卵する、ということだそうだ。

他の災害でも、予測があれば、被害が少なく抑えられる、災害予測が大事だ、といわれる。ここからがオレ感動した文章

<私たち人類を生き育ててくれた大自然、植物や昆虫、動物たちが健全に生きられてこそ、人も健康で長生きできる。いま私たちは、自然から学ぶことを忘れてしまったようだ。人間のご都合主義で自然を破壊。ひょっとして、人間は地球の癌細胞かもしれない（中略）>

それにつけても腹の立つのが、近所で計画している安威川ダム。工事をするとかしないとか、ダム本体以外は完成している・・・？ ダム工事の間もなく着工・・・？ オレ ダム 反対 理由は不自然だから。画像は以前作った「安威川」という画文から。